科目ナンバリング	U-LAS06 10002 LJ41						
授業科目名<英訳>	法学 Jurisprudence			担当者所属職名・氏名	地球環境学舎 教授　　宇佐美　誠		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	金3/金4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

私たちの生活は、法に支えられて成り立っている。法の全体像を深く正しく理解するためには、法体系のモデルを学習することが重要である。本科目では、近代から今日までに発展してきた多様な法体系のモデルについて、平易に概説する。

本科目では、履修者数が極めて多数とならない限り、質疑・討論の時間をやや長めに確保する。履修者数が極めて多数に上る場合には、質疑・討論の時間を設けない。

[到達目標]

多様な法体系のモデルを習得し、関連する諸論点について自ら考察を深めることにより、法の全体像に対する正確かつ複眼的な視座を得ることが、本科目の目的である。

[授業計画と内容]

次の主題について授業を行う。

1. 序論：法体系のモデル【1回】
2. 強制モデル【2〜3回】
3. 命令モデル【2〜3回】
4. ルール・モデル【3〜4回】
5. 原理モデル【2〜3回】
6. 道徳モデル【1〜2回】

授業回数は、フィードバックを含めて全15回とする。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

○履修者数が極めて多数とはならない場合
質疑・討論における各履修者の発言を、質・量の両面から厳密に評価して記録し、授業参加点を算出する。出席による加点はないが、欠席・遅刻・早退は減点対象となる。

授業参加点（50%）と授業期間中に実施する2回の小テスト（25%×2）の点数とを合計して、最終成績を確定する。

○履修者数が極めて多数に上る場合
授業期間中に実施する中間試験（50%）と期末試験（50%）の点数を合計して、最終成績を確定する。

法学(2)へ続く↓↓↓

法学(2)

[教科書]

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕 『法哲学』（有斐閣）ISBN:978-4-641-12567-4

[参考書等]

（参考書）
森村進 『法哲学講義』（筑摩書房）

[授業外学修（予習・復習）等]

○履修者数が極めて多数とはならない場合
履修者は、十分な予習に基づく積極的な発言を期待される。

○履修者数が極めて多数に上る場合
履修者は、十分な予習を行うことを期待される。

[その他（オフィスアワー等）]

質疑・討論の時間が設けられる場合には、教室で自由に発言する楽しさを味わってほしい。

本科目は、同一曜日の2つの時限におおよそ同一の授業内容で開講されるが、授業内容の詳細が異なりうる。そのため、履修者は、履修登録したのとは別の時限に出席・受験しても採点されない。

第1回授業で、出席者数を勘案して授業方法を確定し、その詳細な説明を行うので、履修希望者は必ず出席すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]